

優先的取り組み内容の平成27年度事業結果報告

資料1

事業評価の基準
 A:計画どおり進んでいる場合
 B:計画に遅れが生じている場合
 その他:計画の見直し等の必要が生じている場合

(1) 地域における見守り活動の推進

事業番号	主な事業・活動	事業目標 (平成23年～27年度)	事業計画 (平成27年度)	事業評価	事業結果 (平成27年度)
1	高齢者みまもり相談室の全区展開 【高齢者福祉課】	<ul style="list-style-type: none"> 平成23年度に高齢者みまもり相談室を6か所開設する これにより、区内8か所ある地域包括支援センターの区域ごとに相談室が開設され、全区的に高齢者の見守り拠点が整備されることになり、見守り活動の推進が図られる 	<ul style="list-style-type: none"> <数値的な目標> 高齢者みまもり相談室ごとに見守りネットワーク会議(地域包括ケア会議)を開催 27年4月～28年3月 32回 平成27年度墨田区高齢者見守り活動報告会の開催 参加者200人 各相談室圏域で1か所以上の自主的見守り活動団体立ち上げ <質的な目標> 町会・自治会、老人クラブ、民生委員等と連携して、地域における高齢者見守りネットワークの構築を進める。 区全域をカバーする団体・機関との見守り体制の整備を図る。 地域の社会資源が可視化された「地域資源マップ」を作成する。 	A	<ul style="list-style-type: none"> <数値的な成果> 高齢者みまもり相談室ごとに見守りネットワーク会議(地域包括ケア会議)を開催 27年4月～28年1月 74回 平成27年度墨田区高齢者見守り活動報告会の開催 参加者212名 自主的見守り活動団体立ち上げについては、現在準備中 異変の気づきによる通報 平成27年度(1月末現在):107件 <質的な成果> 見守りネットワーク会議の参加者は、町会・自治会、老人クラブ、民生委員、医療、介護関係機関、警察、社協、見守り協力員等。 高齢者みまもり相談室による地域への取組成果として、高齢者の見守りへの関心が高まり、異変の気づきによる通報が増えている。 「地域資源マップ」については現在準備中
2	小地域福祉活動実践地区の拡大促進 【社会福祉協議会】 【厚生課】	<ul style="list-style-type: none"> 全区に設置した高齢者みまもり相談室を活用し、地域福祉活動コーディネーターの発掘・育成に努める 小地域福祉活動実施地区、ふれあいサロン活動地区の拡大を促進する 27年度目標 小地域福祉活動実施地区 30地区 ふれあいサロン活動地区 20地区 	<ul style="list-style-type: none"> 【社会福祉協議会】 <数値的な目標> 小地域福祉活動実践地区 25地区(3地区増加) ふれあいサロン活動地区 23地区(5地区増加) 拠点型ふれあいサロン 5地区(1地区増加) <質的な目標> ふれあいサロンから地域の声かけ見守り活動などを行っていく小地域福祉活動への活動拡大を支援していく。 地域担当が助成金交付時に全町会・自治会を訪問しており、その際小地域福祉活動やふれあいサロンの意義を説明していく。 子どもから高齢者まで地域のだれもが顔見知りで、何かあったときに気付きあい、相談し合える関係づくりを目指す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【社会福祉協議会】 <数値的な成果> 小地域福祉活動実践地区 26地区(4地区増) ふれあいサロン活動地区 22地区(4地区増) 拠点型ふれあいサロン 4地区 <質的な成果> 小地域福祉活動やふれあいサロンでの日頃の見守り・声かけを、大規模災害発生時などにも活かせるよう、町会・自治会が連携する取り組みが始まっている。 小学校等を拠点とした複数地域の拠点型ふれあいサロンでは地縁のかかわりの薄い人たちの交流の場として機能している。 地域とのかかわりの薄い人をふれあいサロンに誘うなど、活動者として民生委員・児童委員が積極的にかかわっている。
3	地域福祉施設等の見守り活動 【厚生課】	<ul style="list-style-type: none"> 地域にある各福祉施設や商店・企業に対して、地域の高齢者や子ども等に対する見守り活動の実施について啓発し、見守り活動を行う福祉施設、商店・企業を増やしていく 	<ul style="list-style-type: none"> <質的な目標> 計画改定に係る調査の一環として、社会福祉法人等の運営する福祉施設が行っている見守り活動について、調査する。また、各ヒアリング調査を通じて、地域の商店や企業が行っている取り組みを把握する。 引き続き、各福祉施設や商店・企業に対して啓発していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> <数値的な成果> 区と見守り協定を結んでいる事業者数 3件(27年度新規1件) 信用金庫、郵便局等の6事業者と、ながら見守り活動に関する協定を締結 <質的な成果> 福祉施設(34施設)へのアンケート調査 民生委員や町会・自治会と協力して行っている活動がある = 16施設 (具体的には、防災活動13、見守り活動6、防犯活動2など)

(2) 福祉教育の推進と地域福祉の担い手の育成・支援

事業番号	主な事業・活動	事業目標 (平成23年～27年度)	事業計画 (平成27年度)	事業評価	事業結果 (平成27年度)
4	<p>各世代ごとの、段階的・継続的な福祉教育プログラム体系の整備</p> <p>【社会福祉協議会】 【指導室】</p>	<p>・ 児童・生徒に対する福祉教育では、関係機関が連携をとり、段階的・継続的な実施を検討していく</p> <p>・ 各企業が実施するボランティア体験の受け入れや、ボランティア活動への参加促進、シニア世代に対するボランティア活動入門講座に新たなプログラムを検討するなど、新たな福祉人材担い手の発掘に努める</p>	<p>【社会福祉協議会】</p> <p><数値的な目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業ボランティア体験 1件 ・ ボランティア入門講座 2回 ・ ボランティア協力推進校指定 2校 ・ 小学校等での拠点型ふれあいサロンの新規開拓(1地区) <p><質的な目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各学校において開催するボランティアスクールにおいては、学びの内容や講師について学校と調整し、児童・生徒にボランティア活動への関心をもってもらえるよう発達の段階に応じた取組を推進する。 ・ 幅広い世代や段階に対応できる活動プログラムを検討・実施する。 	A	<p>【社会福祉協議会】</p> <p><数値的な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 企業ボランティア体験 三菱東京UFJ新任研修 7 施設28名 ・ シニアボランティア入門講座 1回18名(1月末時点) ・ ボランティア入門講座 1回6名(1月末時点) ・ 豎川中学校・桜堤中学校をボランティア推進協力校に指定した。 ・ 小学校等での拠点型ふれあいサロンの新規開拓(0地区) ・ 小中学生ボランティアスクール(1月末時点) 小学校5校14回 中学校3校16回 高校2校13回 延2076名 ・ ボランティアスクール 1回46名 ・ 夏体験ボランティア事業 108名 ・ 歳末助け合い街頭募金活動に5校の参加があった。 ・ 第三吾嬬小学校での拠点型ふれあいサロン活動を月1回開催 <p><質的な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第三吾嬬小学校や児童館等4か所での拠点型ふれあいサロン活動において、地域の高齢者と児童・乳幼児親子が定期的に交流している。また、これにより高齢者と児童・乳幼児親子が学外で挨拶をし合い、互いにゆるやかに見守る関係が築けてきている。 ・ 幅広い世代に、ボランティア活動参加へのきっかけが提供できた。
5	<p>地域福祉活動コーディネーターの発掘・育成</p> <p>【社会福祉協議会】</p>	<p>・ 小地域の福祉活動をコーディネートする人材の発掘・育成を社会福祉協議会が中心に行っていく</p>	<p><数値的な目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉活動セミナー1回実施(災害関連の内容で検討中。町会自治会にも参加を呼びかける) <p><質的な目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小地域福祉活動実践者やふれあいサロン活動者の発掘にむけた講座のほか、地域で何かあったときに気づき、関係機関につなぐことができる人材の育成を目指す。 	A	<p><数値的な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉活動セミナーの実施(10月4日) 参加者 100人 <p><質的な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域福祉活動セミナーの実施(10月4日)では、「あなたならどうしますか?～災害時に起きること～」をテーマに、被災地支援を行っているNPO法人職員を講師に災害時に地域でどのような自主活動が必要になってくるかを考える講座を実施した。災害がテーマだったため、町会・自治会役員の参加も多く、小地域福祉活動者と町会・自治会関係者が共に災害や地域を考える機会となった。

6	社会貢献型後見人 (市民後見人)の育成 【厚生課】 【社会福祉協議会】	・平成27年度までに30人の社会貢献型後見人の育成をめざす	<数値的な目標> ・市民後見人養成研修修了者16名(累計50名) ・養成研修受講者20名 ・市民後見人受任件数10件(累計30件) <質的な目標> ・パンフレット等を配布して、成年後見制度及び市民後見人養成研修について周知する。(配布場所は、区関連機関、福祉施設、金融機関、スーパーなど) ・受任している市民後見人に対するフォローアップ講座を充実し、市民後見人のスキルアップをはかる。 ・昨年は、養成研修受講者数がやや目標値に届かなかった。改善策として説明会を2回とし研修参加の機会を増やしていく。	A	<数値的な成果> ・市民後見人養成研修修了者12名(累計46名)修了者(46名)の年齢構成は、30代1名、40代4名、50代17名、60代23名、70代1名。 ・養成研修受講者11名(累計73名) ・市民後見人受任件数6件(累計26件) ・フォローアップ講座の実施(2回実施) <質的な成果> ・パンフレット等を配布して、成年後見制度及び市民後見人養成研修について周知した。(配布場所は、区関連機関、福祉施設、金融機関、スーパーなど) ・受任している市民後見人に対するフォローアップ研修を実施し、疑問点の解消やスキルアップに役立った。 ・養成研修説明会を1回増やし2回開催したが目標数に届かなかった。
7	民生委員・児童委員 やボランティアグループ などへの支援強化 【厚生課】 【社会福祉協議会】	・民生委員・児童委員やボランティア活動などについて、その重要性や活動状況をPRするとともに、活動能力の向上を図るための研修なども充実していく ・ボランティアグループやNPO法人の育成に努める	【厚生課】 <数値的な目標> ・東京都開催の研修会7回 ・区独自の研修会1回 ・施設見学会1回 <質的な目標> ・民生委員・児童委員に対する研修会を開催する 【社会福祉協議会】 <数値的な目標> ・ボランティアグループの育成に努める。	A	【厚生課】 <数値的な成果> ・東京都開催の研修会 8回 参加者138名(1月31日現在) ・区独自の研修会 1回 平成28年3月実施予定 ・施設見学会 113名 <質的な成果> ・民生委員・児童委員の活動に必要な研修について、東京都が開催する研修会にに参加したほか、区独自に高齢者見守り人材向けの研修を実施予定である。また、先端技術を学ぶため介護・医療用ロボットについて「サイバースタジオ」で施設見学会を実施した。 【社会福祉協議会】 <数値的な成果> ・ボランティアグループの育成 新規登録団体 2団体(1月末時点) <質的な成果> ・新規2団体は以下のとおり 墨田区保護司会 保護観察者の再犯防止、更生活動 PiLi ALoHa(ピリアロハ) 高齢者施設等でのフラダンス披露

(3)地域福祉プラットフォームづくり

事業番号	主な事業・活動	事業目標 (平成23年～27年度)	事業計画 (平成27年度)	事業評価	事業結果 (平成27年度)
8	課題別プラットフォームの形成促進 【厚生課】	<ul style="list-style-type: none"> 地域における課題ごとに、関係者や関係団体・機関が集まり、課題の解決にむけた話し合いの場づくりを行っていく 	<p><数値的な目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 第5回すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム開催 7月4日(土) 参加者: 400名 <p><質的な目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ～地域福祉・ボランティアフォーラム～ 7月4日にすみだボランティアセンター30周年記念式典と同時にすみだ地域福祉ボランティアフォーラムを開催する。 ボランティアの意義や活動を多くの人に知ってもらう。(情報の周知、理解・参加の促進) 地域の課題や実際の取り組みを紹介するとともに、地域の課題解決にむけて話し合う場を設ける。(プラットフォームの形成促進) <p>～プラットフォームの形成～</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な関係者・関係機関が地域でつながりをつくっていけるように、地域で行われているプラットフォーム的な取り組みについて情報発信する。 	A	<p><数値的な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 第5回すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム開催 日時: 7月4日(土) 13:00～16:30 場所: すみだリバーサイドホール 参加者: 約400名 <p><質的な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ～地域福祉・ボランティアフォーラム～ すみだボランティアセンター開設30周年の記念式典において、ボランティア活動にご尽力いただいた皆様に感謝状を贈呈した。ボランティア活動の意義や活動を多くの人に知っていただく機会となった。 「地域福祉を創る～自分らしく暮らすために」と題し、これからの地域福祉のあり方、方向性について、元NHK福祉ネットワークキャスターの町永俊雄氏による講演会を開催した。(情報の周知、理解・参加の促進) 地域活動事例紹介にて拠点型ふれあいサロンの紹介をした。その後、少人数でテーブルを囲み地域の課題、解決策についての意見交換をした。様々な職業、様々な年代の方が地域の課題について一緒に語り合い、つながりが生まれた。(プラットフォームの形成促進) <p>～プラットフォームの形成～</p> <ul style="list-style-type: none"> 高齢者みまもり相談室にて「見守りネットワーク会議」が開催され、町会・自治会、老人クラブ、民生委員、医療、介護関係機関、警察、社協、見守り協力員等が集まり、課題解決にむけた話し合いの場が形成されている。 小地域福祉活動において、地域住民の話し合いに、社協、みまもり相談室等の関係機関が加わる例があり、課題解決のために連携・協働していく場となっている。
9	区内相談機関と地域住民活動との連携強化 【社会福祉協議会】	<ul style="list-style-type: none"> 行政と関係機関の連携を強めるとともに、地域で活動されている個人、団体との連携を図るよう努める 	<p><数値的な目標></p> <ul style="list-style-type: none"> 小地域福祉活動連絡会 4回 拠点型ふれあいサロン活動 5か所 拠点型ふれあいサロン交流会 1回 <p><質的な目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ふれあいサロンや小地域福祉活動、拠点型ふれあいサロンで民生委員や小学校・児童館、高齢者みまもり相談室といった相談機関と連携し、活動を進める。 	A	<p><数値的な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 小地域福祉活動連絡会 3回 拠点型ふれあいサロン活動 4か所 拠点型ふれあいサロン交流会 1回 <p><質的な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> 小地域福祉活動連絡会では、高齢者みまもり相談室職員も参加し、地域の情報交換を行った。 拠点型ふれあいサロン活動で、民生委員・児童委員のほか、小学校・児童館・高齢者みまもり相談室等と連携し事業を実施している。 小地域福祉活動やふれあいサロンでは、高齢者みまもり相談室や子育て支援総合センター職員の話聞く機会を積極的に設けており、地域で何かあったときに住民が専門機関に通報・相談するシステムができてやすくなっている。 拠点型ふれあいサロン活動では、立ち上げ時から民生委員・児童委員、関係機関と連携しながら活動を進めている。

(4) 地域福祉活動に関する情報の周知、理解・参加の促進

事業番号	主な事業・活動	事業目標 (平成23年～27年度)	事業計画 (平成27年度)	事業評価	事業結果 (平成27年度)
10	(仮称)地域福祉・ボランティアフォーラムの開催 【厚生課】 【社会福祉協議会】	・ 地域における課題ごとに、関係者や関係団体・機関が集まり、課題の解決にむけた話し合いの場づくりを行っていく	< 数値的な目標 > ・ 第5回すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム開催 7月4日(土) 参加者: 400名 < 質的な目標 > ・ 7月4日にすみだボランティアセンター30周年記念式典と同時にすみだ地域福祉ボランティアフォーラムを開催する。 ・ ボランティアの意義や活動を多くの人に知ってもらう。(情報の周知、理解・参加の促進) ・ 地域の課題や実際の取り組みを紹介するとともに、地域の課題解決にむけて話し合う場を設ける。(プラットフォームの形成促進)	A	< 数値的な成果 > ・ 第5回すみだ地域福祉・ボランティアフォーラム開催 日時: 7月4日(土) 13:00～16:30 場所: すみだリバーサイドホール 参加者: 約400名 < 質的な成果 > ・ すみだボランティアセンター開設30周年の記念式典において、ボランティア活動にご尽力いただいた皆様に感謝状を贈呈した。ボランティア活動の意義や活動を多くの人に知っていただく機会となった。 ・ 「地域福祉を創る～自分らしく暮らすために」と題し、これからの地域福祉のあり方、方向性について、元NHK福祉ネットワークキャスターの町永俊雄氏による講演会を開催した。(情報の周知、理解・参加の促進) ・ 地域活動事例紹介にて拠点型ふれあいサロンの紹介をした。その後、少人数でテーブルを囲み地域の課題、解決策についての意見交換をした。様々な職業、様々な年代の方が地域の課題について一緒に語り合い、つながりが生まれた。(プラットフォームの形成促進)

11	<p>地域福祉に関する情報の発信</p> <p>【福祉保健部各課】 【社会福祉協議会】</p>	<p>・ 高齢・障害・子育てのガイドブックを発行し、その周知に努めていくとともに、地域福祉に関するガイドを目的とした情報発信を効果的に行っていく</p> <p>【障害者福祉課】 <数値的な目標> ・ 障害者福祉の手引「フレーフレーマイペース」の作成：2,000部</p> <p><質的な目標> ・ 毎年、法の改正やサービスに変化が生じるため、掲載内容を改めつつ今後も継続して実施する。</p> <p>【介護保険課】 <数値的な目標> ・ 区のお知らせ「介護保険特集号」作成及び配布：88,000部 ・ 高齢者福祉サービスのしおり「たんぼぼ」作成：47,000部 ・ 「よくわかる介護保険」作成：5,000部 ・ 「介護保険ミニガイド」作成：5,000部</p> <p><質的な目標> ・ 介護保険制度、高齢者福祉サービスについて、区民に周知する。 (「特に介護保険制度改正に伴う変更点について、情報が伝わるようにする」)</p> <p>【子育て支援課】 <数値的な目標> ・ いきいき子育てガイドブック作成及び配布：3,000部 ・ 子育て応援アプリのダウンロード：2,000件</p> <p><質的な目標> ・ 妊娠から出産・子育てと切れ目のないサービスを提供するため、また、子育て世代の保護者等が必要とする子育て支援情報を効率的に提供するため、今後も継続して実施する。</p> <p>【社会福祉協議会】 <数値的な目標> ・ ホームページ：更新1回/月 ・ フェイスブック発信：更新2回/月 ・ 社協だより：5回/年(フルカラー化) 各78,000部 ・ 視覚障害者向け広報テープ「ひびき」：5回/年 ・ 「ボランティアだより」作成配布：12回/年 ・ ハンディキャブ通信 作成配布：1回/年 ・ ハート・ライン21会報：5回/年 ・ ミニサポート会報：5回/年 ・ ファミリー・サポート会報：5回/年 ・ 小地域福祉活動・ふれあいサロン通信：3回/年 ・ おもちゃサロン通信：3回/年</p> <p><質的な目標> ・ 広報紙、ホームページ、SNSなどいろいろな媒体を活用し、対象者の必要な情報を提供していく。</p>	A	<p>【障害者福祉課】 <数値的な成果> ・ 障害者福祉の手引「フレーフレーマイペース」の作成：1,800部</p> <p><質的な成果> ・ 新規手帳取得者・18歳到達の手帳保持者・障害福祉関係の研修参加者等に配布した。</p> <p>【介護保険課】 <数値的な成果> ・ 区のお知らせ「高齢者福祉・介護保険特集号」作成及び配布：83,000部 ・ 高齢者福祉サービスのしおり「たんぼぼ」作成：47,000部 ・ 「よくわかる介護保険」作成：5,000部 ・ 「介護保険ミニガイド」作成：5,000部</p> <p><質的な成果> ・ 介護保険制度、高齢者福祉サービスについて、区民に周知することができた。 ・ 「たんぼぼ」については、高齢者世帯に各1冊ずつ配布し、周知を図った。作成にあたっては医療機関一覧を加える等全面的に編集を見直し、更に見やすく利用しやすいものとした。また、墨田区内介護サービス事業所等の広告を掲載することにより、経費削減を図った。なお、今回は「墨田区高齢者福祉総合計画・第6期介護保険事業計画」の改定を踏まえたものとなっている。</p> <p>【子育て支援課】 <数値的な成果> ・ いきいき子育てガイドブックの配布：3,000部 ・ 子育て応援アプリのダウンロード：1,914件(28年1月31日現在)</p> <p><質的な成果> ・ 子育て中の世帯に子育てサービスについて周知することができた。</p> <p>【社会福祉協議会】 <数値的な成果> ・ ホームページ：更新1回/月 ・ フェイスブック発信：更新2回/月 ・ 社協だより：5回/年(フルカラー) 各78,000部 ・ 視覚障害者向け広報テープ・CD「ひびき」：5回/年 ・ 「ボランティアだより」作成配布：12回/年 ・ ハンディキャブ通信 作成配布予定：1回/年 ・ ハート・ライン21会報：5回/年 ・ ミニサポート会報：5回/年 ・ ファミリー・サポート会報：5回/年 ・ 小地域福祉活動・ふれあいサロン通信：3回/年 ・ おもちゃサロン通信：3回/年</p> <p><質的な成果> ・ これまでつながりの弱かった若い世代や社会人に対するの情報発信の充実と災害時の情報発信の手段として、「公式フェイスブックページ」の運用を行っている。 ・ 視覚障害者向けテープのデジタル化(CD)を行い、聴取方法の利便性向上を図った。</p>
----	---	--	---	--

12	<p>民生委員や社会福祉協議会、地域包括支援センター等の相談・支援機関のPR強化</p> <p>【厚生課】 【高齢者福祉課】 【社会福祉協議会】</p>	<p>・ 既存の情報発信内容を充実していくとともに、高齢者むけ情報誌「知って得するみまもりだより」を各相談室ごとに発行していく</p> <p>・ 地域包括支援センター等のPRに努めていく</p> <p>【高齢者福祉課】 <数値的な目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室リーフレットの作成：5000部 ・ 「知って得するみまもりだより」を毎月発行 各2000～3500部作成 ・ 高齢者支援総合センター（8か所）の「便り」を発行 各500～4000部作成 <p><質的な目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室共通のリーフレットを作成し、相談窓口のPRを行う。 ・ 高齢者みまもり相談室ごとに「知って得するみまもりだより」を発行し、地域における取組み等を紹介する。 ・ 高齢者支援総合センターにおいてもPR紙等を作成し、一層の周知を図る。 <p>【厚生課】 <数値的な目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 区報の特集記事 1回 <p><質的な目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 民生委員・児童委員活動については、広報紙やケーブルテレビでPRするほか、区役所アトリウムでのPRイベント、すみだまつりへのブース出展し広く区民にPRする。 <p>【社会福祉協議会】 <数値的な目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すみだまつり 墨田社協ブース設置 ・ すみだボランティアまつり実施 ・ 職員による全町会・自治会訪問（168町会・自治会） <p><質的な目標></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 広報誌やHPといった広報以外に、すみだまつりやすみだボランティアまつりなど住民の多く集まるイベントに参加し、広く区民にPRすると同時に、町会等に職員が訪問し、必要な情報を提供していく。 	A	<p>【高齢者福祉課】 <数値的な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室リーフレットの作成：5000部 ・ みまもり相談室（8か所）で「知って得するみまもりだより」を毎月発行 各2000～3500部作成 ・ 高齢者支援総合センター（8か所）で「便り」を発行 各500～3500部作成 ・ 27年9月、喜寿祝金配布時にふれあい訪問票による実態調査を実施、高齢者支援総合センター、高齢者みまもり相談室の認知状況を把握。2,169件中、67.8%が「知っている」と回答 ・ 支援が必要だと思われる方と訪問を希望される方に対し、高齢者みまもり相談室による二次調査を実施。326件 ・ PRイベントの開催（8か所の高齢者支援総合センター・高齢者みまもり相談室）開催10回 参加者1,885人 <p><質的な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者に関する地域での身近な相談窓口である高齢者支援総合センター、高齢者みまもり相談室がそれぞれ工夫しながらPR活動を進めている。 ・ PRイベントの計画から報告をとおり、PDCAサイクルを意識した事業実施スキルが向上した。 <p>【厚生課】 <数値的な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 区報の特集記事 1回（11月1日号） <p><質的な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すみだまつりに民生委員・児童委員協議会のブースを出展し広く区民にPRした。 ・ 東京都民生児童委員連合会の民生委員・児童委員活動普及・啓発パレードに参加し、民生委員・児童委員活動をPRした。 <p>【社会福祉協議会】 <数値的な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ すみだまつり 墨田社協ブース設置 ・ すみだボランティアまつり 参加者 2,500名 ・ 職員による全町会・自治会訪問（167町会・自治会） <p><質的な成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 職員が全町会・自治会を訪問し、地域の現状と課題の把握に努めた。また、小地域福祉活動やサロン活動の理解促進を図った。
----	--	---	---	--